

日本不妊看護学会ニュースレター No.5

Japanese Society of Infertility Nursing (J.S.I.N)

2005年を迎えて

日本不妊看護学会理事長 森明子

新年、明けましておめでとうございます。

皆様益々お元気でお過ごしとのこと、お喜び申し上げます。

JSINIは設立から二度目の正月を迎えました。1年半前の船出から、航海の安全に恵まれたのも、役員の皆様の堅実な働きがあったからこそと、感謝申し上げます。また、学会の活動にご支援をいただいた皆様のご厚情にこの書面を借りてあらためて御礼を申し上げます。不妊看護をめぐる活動を振り返り、心に残ったことをいくつか書き留めてみます。

昨年4月30日、学会誌第1巻第1号を発刊。ぎりぎりの予算のなか、内容も装丁も立派な冊子ができたこと、とりわけ学術誌としての創刊に喜びと感動が湧きました。9月4日第1回不妊看護実践セミナー(聖路加看護大学21世紀COEプログラムとの共催)、同月5日第2回学術集会を開催。諸事情から日本不妊学会・日本受精着床学会との会期の重なりを避けがたく、開催場所も旭川と東京という遠距離ゆえに、危機に瀕した場面もありましたが、諸氏からの暖かいお力添えがあり、無事に乗り越えることができました。セミナーはとくに参加者から好評であっただけに、ご参加いただけなかった方々には申し訳ないという思いが残りました。学術集会後の懇親会で、企画委員から贈られた花束を手にした浜崎大会長の目から、こぼれ落ちた涙が忘れられません。

目次

* 理事長あいさつ	1
* 日本不妊看護学会第3回学術集会のお知らせ	3
* 不妊看護認定看護師教育課程3期生のつばやき	4
* 今年度活動計画	6
* 勉強会のお知らせ	8

多くの仕事を抱えながら、手探り・手作りで進めてきた関係者の、心に残る重荷や葛藤を拭い去ってくれるような涙でした。それはまた同時に、疲労の混じる安堵感に満たされた私に、これから果たすべき役割と責任の重さに身が引き締まる思いをもたらしました。

学会以外の個人的活動では、「特定不妊治療費助成事業」の開始にともない、某地方自治体が10月初旬に催した市民向けの不妊治療に関するセミナーに講師として招かれたこと。なぜなら、看護職として一般市民向けに直接、講演する機会は私にはそれまでなかったことだからです。当日は170名を越える参加者に恵まれ、質問用紙も多数寄せられ、限られた質疑応答の時間では答えきれないほどでした。アンケートから、うれしかった感想を紹介しましょう。ある男性は「とても難しかった。しかし、不妊治療を受けるたあにはこのくらい勉強しないといけないのだということがわかりました」また、助産学生は「一般の方にこんなに難しい内容をお話されたことに驚きました。しかし、治療をよく理解し納得して受けてもらうためには、このくらい勉強しなければならないということなのだと思います」もちろん、私の話が飛び切り高度だったわけではありません。ちょうどよかった、知っていたことの再確認ができたという感想も同じくらいありました。市民、当事者の知識の量・質には個人差があります。しかし、ご相談を受けていて感じるのは、総じて医療者との知識のギャップは我々の想像以上に大きいこと、そして当事者の側に立って、教え(伝え)られていたら、不安や不満、迷いなどにつながらなくてすむことがたくさんあるだろうに.....ということです。生殖・不妊看護の専門的機能の一つは教育、エデュケーターとしての機能です。医療に対し、受身ではなく積極的なコンシューマーとなるために、学習者としての自覚を促すと同時に、当事者が自分の心身に起こっていることや治療について、よく理解できるように説明したり、必要なコンテンツを提供するのにもっとも適しているのは看護職だと思います。

2005年は、生殖・不妊医療における看護はこんなことを行っていますという、市民、当事者に対する看護についての説明を一人一人が意識して仕事してみませんか。

日本不妊看護学会

第3回学術集会

テーマ 不妊看護の専門性の追究と発展

開催日 平成17年8月27日(土)

場 所 千葉大学 けやき会館

千葉市稲毛区弥生町1-33

会場までのアクセス

東京駅よりJR総武線快速利用

稲毛駅にて各駅停車に乗り換え約50分

秋葉原駅よりJR総武線利用約50分

演題募集の締め切りは5月末日です
皆様のご応募お待ちしております

国立大学法人千葉大学

不妊看護認定看護師教育課程3期生のつぶやき

平成16年10月4日、不妊看護認定看護師教育課程に3期生14名を迎え研修はスタートしました。平均年齢35歳。臨床では中堅からベテランといわれる方々が、日々不妊看護を考え学習に取り組んでいます。その3期生の声を紹介します。

不妊看護認定看護師を目指した理由

不妊患者の相談窓口がなく、スタッフも困っていた。専門知識を持った人が必要。不妊の方のケア・サポートがなされていないと感じ、専門的に勉強できると思った。不妊の現場で何が起きているのか知りたかった。不妊治療後の妊婦の不安やトラブルを理解したい。不妊から妊娠・出産・育児まで包括的に関わりたい。不妊の患者にもっと十分な関わりを持ちたい。不妊看護を学んでスタッフと共に看護を考え実践したい。不妊看護の必要性を感じていたが具体的にどうしていいのかわからなかった。不妊患者に接するうちに人の人生に関わる大変なことだからもう少し勉強しようと思った。

現在学習していて楽しいこと

全国のいろいろな人と知り合えること。同じ志の仲間がいること。最新情報や新しい知識を幅広く得ること。根拠が理解できるようになった。実践の場で困っていたことを理解できるとうれしい。独学ではできない勉強ができる。自己理解が深まる。グループワークやディスカッションで色々な考えや自分の中に新たな発見ができると楽しい。視野が広がった。不妊を取り巻く環境について知った。貴重な体験をしていると実感できる。

学習していてつらいこと

色々なことが学べるが消化する前に新しいことが入ってくる。課題・レポートが多く、吸収しなければならないことが多い。自分の考えを文章化したりプレゼンテーションすることが難しい。山のような課題がストレス、追い詰められる。考える力の訓練。毎日が少しっらい。余裕がない。勉強すること自体が大変。

認定看護師になったらどのような活動をしたいですか

不妊患者の相談活動からはじめる。不妊看護の重要性をスタッフや患者さんに知らせ色々な活動をしていきたい。不妊の問題を抱えた女性やカップルに治療や検査が納得して受けられるようサポートしたい。院内の理解を求めるための勉強会から地域への活動へと広げたい。不妊医療の環境整備。まずは施設で不妊看護の必要性を伝えたい。不妊医療の安全管理に対するマニュアルを見直したい。職場での組織作りをしていきたい。

現在、科目の学習が終盤に向かい、実習の準備をしている中で学習の楽しさを感じつつ課題に追われている3期生もそれぞれの立場で不妊看護をどのように実践するか模索しているようです。治療を受けられている方が質の良い医療を受けられるように、そして不妊に悩まれている方が不妊という現実の中でより良い生を生きられるよう看護を考えて生きたいと願っています。

教育課程担当 柴田 文子

認定看護師 < 不妊看護 > 教育課程のご紹介

1)教育目的

施設において、不妊の問題を抱えたカップルに対して適切なアセスメントを行い、全人的なケアを実施、その卓越した実践能力を基盤として、他の看護職に対する相談・指導を担う能力を育成する。

2)教科目および授業時間数

共通科目120	専門基礎科目105	専門科目120	演習75	臨地実習225
必須	リプロダクティブヘルス理論15	不妊看護概論15	演習145	実習・見学225
リーダーシップ15	不妊の基礎知識15	不妊看護援助論130	演習H30	
文献検索・文献講読15	不妊症の診断30	不妊看護援助論H15		
情報処理15	不妊症の治療30	不妊看護援助論Ⅲ30		
看護倫理15	社会現象としての不妊15	不妊看護のマネジメント30		
教育・指導15				
コンサルテーション15				
選択				
対人関係15				
看護管理15				
総時間数645時間				

*2005年度の入学選抜試験、教育期間等につきましては下記へお問い合わせ下さい。

社団法人日本看護協会 n 神戸研修センター 認定看護師教育課程入試係

〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1

国際健康開発センター4階

TEL078-230-3250 FAX078-230-3256

今年度活動計画

1. 実践開発委員会

- 1) 相談活動の起動
- 2) 相談活動のPR
- 3) 相談件数に応じて相談を受ける人材の増員と質の維持について検討

2. 教育推進委員会

- 1) 勉強会の開催
 - (1) スケジュールについて
平成16年12月関西地区
平成17年6月関東地区を予定
 - (2) 開催・運営方法の変更
定期的に行う回数は2回程度委員会で企画し、各地で小勉強会が開催されるようにする。
その中心運営には、不妊看護認定看護師があたる。
各地域の勉強会は担当を決め、運営する。担当者は、勉強会開催要項をもとに、場所の確保、事例提供者へ依頼、議事の進行を行う。
PRはニュースレター・HPで行う。
勉強会時の資料代として300円程度徴収する。
- 2) 不妊看護実践セミナーの開催
- 3) 「最新の不妊医療動向と看護」についての情報提供
医師・エンブリオロジストに依頼し、ニュースレターにシリーズで掲載する予定。

3. 広報委員会

- 1) ニュースレターの発行年4回(9月、12月、3月、6月)
- 2) ホームページへはニュースレターの目次を掲載。発行より1年経過したニュースレターは内容をホームページに掲載(平成16年12月より開始予定)
- 3) 学会紹介・入会案内のリーフレットを作成し、他学会などでのPRに努める。

4. 編集委員会

1)日本不妊看護学会誌(Journal of Japanese Society of Infertility Nursing)を発行するための編集活動を行う。

(1)原著、報告等の投稿原稿の受付、査読の依頼、採否の決定を行う。

(2)学会誌の編集、発送を行う。

【日本不妊看護学会誌】

・年1回発行。

・第2巻第1号(2004)は、原著、報告等の投稿原稿、第2回学術集会の総会報告、会長講演、シンポジウム、一般演題の総括によって構成する。

5. 将来検討委員会

1)国内外の不妊看護をとりまく動向を見据えながら、情報の収集に努める。

(1)国内の情報収集

引き続き、国内の不妊看護に関する情報を入手するための情報源の探索。

引き続き、HP、マスコミ、学会誌、ニュースレター、イベント参加資料等を通じて、国(厚生労働省)の動向に関する情報、関連学会*1)の動向に関する情報、自助グループの動向に関する情報を収集。

引き続き、国内のトピックスに関して、適宜情報収集。

(2)国外の情報収集

引き続き、国外の不妊看護に関する情報を入手するための情報源の探索。

引き続き、HP、マスコミ、学会誌、ニュースレター、イベント参加資料等を通じて、関連学会*2)の動向に関する情報、自助グループの動向に関する情報を収集。

引き続き、国外のトピックスに関して、適宜情報収集。

(3)情報の発信

収集した情報を、広報委員と連携をはかりながら、本学会HP・ニュースレターを通じて発信。

2)研究助成

(1)助成金の積み立て。

助成手続き、公募方法、審査方法等を検討。

*1)国内の関連学会としては、日本不妊学会、日本受精着床学会、母性衛生学会、不妊カウンセリング学会、看護系学会等。

*2)海外の関連学会としては、国際不妊学会、ESHRE、ASRM、看護系学会等。

*3)研究助成は、平成18年度から開始する。助成は公募し、審査によって1~2件を採択、助成金額10万円/件。

勉強会のお知らせ

1.関西地区勉強会

テーマ:「事例検討と不妊看護認定看護師勉強会報告」

日時:平成17年1月15日(土)14:00~16:00

場所:神戸市立中央市民病院

内容:1.事例検討

2.不妊看護認定看護師勉強会の報告

「セックスレスの看護について」

資料代:300円

ポータルライナー

JR三宮駅から乗車し、4番目の市民病院前駅で下車してください(所要時間約9分)連絡通路で病院2階外来口ヒーに直結しています料金大人240円

2.九州地区勉強会

テーマ:「地域における不妊看護のネットワークを考える」(仮)

日時:平成17年1月29日(土)14:00~16:30頃

場所:浜の町病院研修講堂

担当:浜の町病院看護部看護専門相談室不妊看護グループ蔵本ウイメンズクリニック

資料代:300円

問い合わせ・申し込み

1月15日出まで浜の町病院金丸道子

mltiko_kanamaru@aw2mopera.ne.jp

3.北海道地区勉強会

日時:平成17年3月27日午後

場所:神谷レディースクリニック(札幌)

お申し込み・問い合わせ

(社)日本看護協会神戸研修センター
不妊看護認定看護師教育課程
柴田文子

〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1
国際健康開発センター4階
TEL(078)230-3250直通(078)230-3251
FAX(078)230-3256
E-mallfumlko.shlbata@kobe.nurse.or.jp

編集後記

新春の候、更なる目標に向かって新たな気持ちで頑張れる時季です。

今年度も興味深いテーマで勉強会も開催されます。

多くの方々と出会い学びを共有しながら視野を広げ、不妊看護について考えていきたいと思います。今年も一緒にがんばっていきましょう。

日本不妊看護学会

Japan Society Infertility Nursing
(J.S.I.N)

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内
Tel & Fax 03-5550-2266
E-mail jsin@slcn.ac.jp